

2011

大人向け絵本

Illustrated book to adult

AD 14 岸田 昌子
指導教員 井上 謙

1.研究目的

現在、確立されつつある「大人向け絵本」というジャンルは、絵本という子供向け出版物の形式をそのままに、ターゲットを大人に設定したものである。

今回、この「大人向け絵本」の理解を深め、読む人がくつろげる絵本の制作を試みる事を本卒業研究の目的とした。

題材には古くから子供向けの童話として読まれている「不思議の国のアリス」を使用することで「大人向け絵本」と「子供向け絵本」との違いが分かるようにする。

2.調査と分析

現在市販されている大人向け絵本の調査

- ・エミリーザストレンジ/アランジアロンゾ/母親
というものは/雨がふっても/一千一秒物語/キ
ミといっしょに・・・他約830種程度

アンケート調査結果

- ・人は都会的なものよりも自然的なものに「くつろぐ」というイメージを抱きやすい。
- ・人はCG・色鉛筆よりもパステルで描かれた絵のほうに「柔らかさ」を感じる。

3.コンセプトの立案

- ・「不思議の国のアリス」を題材にした癒される大人向け絵本

「癒される」という事をテーマにしたのは、「癒しを求める」という感情は、子供が抱かない大人の感覚だと判断したためである。大人が「不思議の国のアリス」の先入観を持っていても楽しめるものにする。

不思議の国のアリスは童話だが原作はナンセンス・哲学的要素を含み、アウトプットの方法により老若男女のどのターゲット層にも対応しうるものであるため今回、題材に選択した。

4.デザイン展開

自然的要素から「癒される」というイメージの具体化を図り使用色を決める。

- ・花のイメージのピンク
- ・夕焼けのイメージの紫
- ・海のイメージの青
- ・空のイメージの水色
- ・葉のイメージの緑

画材はパステルを使用。しかし、パステルを使うと全体がぼやけたイメージになってしまうので、文章は色を黒にし、教科書体を使用。左揃えで全体を引き締める。

書体に教科書体を使ったのは、教科書体が教科書のみで使用される特殊な書体であるため、「久しぶり」「懐かしい」という感覚を抱いてもらえるようにするためである。

5.完成図



6.結論

絵本について「癒し」「絵」「文」「読みやすさ」「色」の5項目、5段階評価によりアンケート調査を行った結果、一番評価が高かったのは「絵」と「色」で、「色がきれい」「タッチがソフトで良い」等の感想だった。

反対に文字に関しては「もっと絵に合わせた可愛い書体や色でも良かったのでは」、またストーリーに関しては「もっと原作の奥深さが欲しかった」という意見が出された。

絵は「癒される」というテーマに沿って、新しい「不思議の国のアリス」を表現出来た。しかし絵と書体にもっと統一性があったほうが良かったというアンケートの結果になった。

結論として、大人が癒しを感じる絵本には絵の綺麗さ、読みやすさだけでなくストーリーの奥深さ、読みごたえという要素も必要だということがわかった。

7.参考文献

ルイス・キャロル,2004,生野幸吉訳『ふしぎの国のアリス』福音館書店
平田昭吾,1986,『ふしぎの国のアリス』ポプラ社